

委員視察成果報告書

令和6年1月31日

犬山市議会議長

議員名 光清 毅

下記のとおり、視察の成果を報告いたします。

(1) 視察年月日	令和6年1月25日(木) ~ 年 月 日() (泊 日)
(2) 視察地	兵庫県宝塚市
(3) 視察の種類	常任特別委員会 (総務委員会)
(4) 視察成果 (視察地ごとに記入)	<p>別紙のとおり</p> <p>宝塚駅サービスステーションについて 上記施設については、当日の新幹線の遅延のため、 現場視察にとどまった。宝塚市は、市役所が 主要駅から離れているため、こうした施設は駅に 必要不可欠である。できれば、担当者から実際の利用 状況や課題についてヒアリングをしたかった。</p>
(5) 犬山市に 対する提言	<p>まずは、DXに対する認識を全方向的に共有し、 DXを進めるという機運を高める。</p> <p>次に、DX推進の全体方針(ビジョン)を決定し、 市内の推進体制(どこが中心となるか)を確立 する。以上提言します。</p>



○視察成果

◇兵庫県宝塚市（面積：101.89km² 人口：222,075人）

1. 宝塚市DXの推進について

- ・宝塚市においては、令和3年に行財政経営方針を策定し、その中でDXの推進を掲げ、令和5年3月のDX推進ビジョンを策定している。
- ・DX推進ビジョンにおいて、「個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現」をミッションとして、①市民の暮らしをもっと便利に ②つながりをもっと生み出す市役所に ③業務をもっとむだなく効率的に をビジョンとしている。
- ・具体的な取組みは、①自治体情報システムの標準化 ②マイナンバーカードの普及促進 ③行政手続きのオンライン化 ④デジタル技術の利用促進 ⑤多様な働き方の推進 ⑥セキュリティ対策の徹底 ⑦地域社会のデジタル化 ⑧デジタルデバインド（情報格差）対策 ⑨BPR（業務改革）の取組の徹底 ⑩データ利活用の推進 ⑪デジタル人材の育成 としている。

2. データ利活用の推進について

（1）個別事業の分析

- ・令和4・5年度に学童保育需要、町丁目別将来推計人口、介護保険サービス利用量について分析を実施。今後は、職員で実施できる体制を目指す。

（2）ADUPT（データ利活用推進担当）を軸とした取組み

- ・令和4年10月に、庁内公募によりデータ利活用推進チームを立ち上げる。
- ・各課の分析案件にADUPTの5名が伴走支援し、課題解決に向けた取組みと庁内のEBPM推進を行っている。

【具体例】①ふるさと納税 ②市ホームページ数削減 ③自治会アンケート ④消防Instagram分析 ⑤窓口混雑予測 ⑥市営住宅等の将来需要予測

- ・全庁にデータ利活用の効果を伝えていくため、1～2週間に1回ペースで庁内掲示板に活動報告やコラムを掲載している。

（3）全庁向けデータ利活用・サービスデザイン研修

- ・データ利活用、D X推進に必要な能力を役職別に明確化し、体系的に研修を実施している。

3. 業務改革の取組み

(1) 業務相談会

- ・業務相談会では、庁内の個別事業について相談案件の募集を行い、令和4年度に17業務、令和5年度に13業務の改善を検討した。令和5年度は12業務を検討中。

(2) SMART（業務改革ワーキンググループ）を軸とした取組み

- ・令和5年6月に、庁内公募により組織横断的に活動を行うワーキンググループを立ち上げた。
- ・C X O補佐官による「ビジネス向上アカデミー」、事業者による「B P Rスキルアップ研修」等によりB P Rスキルの向上を図るとともに、業務相談会における各課個別業務改善の伴走支援を行っている。
- ・全庁に業務改革の取組みや、業務に役立つ情報を伝えていくため、1～2週間に1回のペースで活動報告やお役立ち Tips を庁内掲示板に掲載している。

(3) 各種ツールの導入

- ・R P A（ロボットによる業務の自動化）、A I - O C R、ノーコードツールなどの各種ツールを導入している。

4. その他

(1) 推進する上での課題

- ・活動が個別にとどまり、組織的な活動になりにくい。
- ・A D U P T ・ S M A R T といったファーストペンギンに続くセカンドペンギンが見つからない。
- ・庁内全体にD Xを推進していくには、実践を通じた業務への展開や仕組化など、まだ時間を要する。